

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽 I	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ②創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけることができる。	①自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫している。 ②音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴こうとしている。	①他者との関わりの中で行われていることを大切にしている。 ②自らの考えを他者と交流したり、互いの気付きを共有し、感じとったことなどに共感しながら個々の学びを深めている。 ③自ら課題を設定し、解決しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・授業中の実践における技術向上の過程 ・実技テストの内容 ・学習プリントの記入内容	・授業、実技テストにおいて、自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。 ・音楽を評価しながら、よさや美しさを自ら味わって聴きとり、学習プリントのまとめることができたか。	・音を出す、声を出すなど、音楽活動への積極的な関わりをもっているか。 ・学習記録表の記入内容、及び自己評価。 ・主体的、協働的に音楽活動に取り組んでいるか。

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容		考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	オリエンテーション	音楽経験アンケート、校歌	定期考査① 実技テスト 学習プリント	22
	5月	歌唱	歌声づくり、合唱		
	6月	楽典	リズム学習・音符の種類		
	7月	鑑賞	音楽を形作る要素について	定期考査② 実技テスト 学習プリント	18
	8月	楽典	楽譜の読み方、書き方		
9月	器楽	キーボード(ピアノ) 奏法、楽器に関する知識、鑑賞			
後 期	10月	創作	リズム創作、CUPS	定期考査③ 実技テスト 学習プリント	18
	11月	鑑賞	舞台芸術の鑑賞・調べ学習		
	12月	器楽	バイオリン 奏法、楽器に関する知識、鑑賞	定期考査④ 実技テスト 学習プリント	20
	1月	器楽	ギター 奏法、楽器に関する知識、鑑賞		
	2月	器楽	ギター 奏法、楽器に関する知識、鑑賞		

5 具体的な評価の方法

・音楽表現に必要な技能を身につけることができたか。	実技テスト・学習プリント
・自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。	実技テスト・学習プリント
・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができたか。	プリント
・主体的協働的に活動に取り組み、遅刻、欠席することなく意欲的に関わる事ができたか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・実技テストにおいては結果のみでなく、技能向上に向けて努力した過程も評価する。 ・毎時間記入する「学習記録表」に、感じたこと、新たに覚えたことなどを記入、積み重ねを大切にする。 ・実技教科のため、授業への出席時間、取り組みを重視する。

7 教科書・副教材

教科書…MOUSA(教育芸術社) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

・音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を深め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 ・曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。	音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じたこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。	・技能向上に向けた取り組み ・主体的、協働的な取り組み ・学習記録表(自己評価、振り返り) ・毎時の準備、片付け、出欠席の状況
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・授業中の実践における技術向上の過程 ・実技テストの内容 ・学習プリントの記入内容	・授業、実技テストにおいて、自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。 ・音楽を評価しながら、良さや美しさを自ら味わって聴きとり、学習プリントのまとめることができたか。	・音を出す、声を出すなど、音楽活動への積極的な関わりをもっているか。 ・学習記録表の記入内容、及び自己評価。 ・主体的、協働的に音楽活動に取り組んでいるか。

4 年間指導計画

	学習の内容	考查範囲	時数(予定)	
前期	4月 オリエンテーション	音楽経験アンケート、校歌	定期考查① 実技テスト 学習プリント	22
	5月 歌唱	歌声づくり、合唱		
	6月 楽典	リズム学習・音符の種類	定期考查② 実技テスト 学習プリント	18
	7月 鑑賞	音楽史について(中世～古典)		
	8月 楽典	楽譜の読み方、書き方		
9月 器楽	キーボード(ピアノ) 奏法、楽器に関する知識、鑑賞			
後期	10月 創作	リズム創作、CUPS	定期考查③ 実技テスト 学習プリント	18
	11月 鑑賞	音楽史について(ロマン派～現代)		
	12月 器楽	バイオリン 奏法、楽器に関する知識、鑑賞	定期考查④ 実技テスト 学習プリント	20
	1月 器楽	ギター 奏法、楽器に関する知識、鑑賞		
2月 器楽	ギター 奏法、楽器に関する知識、鑑賞			

5 具体的な評価の方法

・音楽表現に必要な技能を身につけることができたか。	実技テスト・学習プリント
・自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。	実技テスト・学習プリント
・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができたか。	プリント
・主体的協働的に活動に取り組み、遅刻、欠席することなく意欲的に関わることができたか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

・実技テストにおいては結果のみでなく、技能向上に向けて努力した過程も評価する。
 ・毎時間記入する「学習記録表」に、感じたこと、新たに覚えたことなどを記入、積み重ねを大切にする。
 ・実技教科書のため、授業への出席時間、取り組みを重視する。

7 教科書・副教材

教科書…MOUSA(教育芸術社) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽Ⅲ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

<p>・音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって音楽表現をするために必要な発声、読譜などの技能を身に付け、創造的に表している。	楽曲のリズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きによる特質や雰囲気などを感受しながら、楽曲の表現内容を総合的に理解して音楽表現を工夫し、どのように歌うか表現意図をもってしている。	・技能向上に向けた取り組み ・主体的・協働的な取り組み ・学習記録表(自己評価、振り返り) ・毎時の準備、片付け、出欠席の状況
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の実践における技術向上の過程 ・実技テストの内容 ・学習プリントの記入内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、実技テストにおいて、自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。 ・音楽を評価しながら、良さや美しさを自ら味わって聴きとり、学習プリントのまとめることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音を出す、声を出すなど、音楽活動への積極的な関わりをもっているか。 ・学習記録表の記入内容、及び自己評価。 ・主体的・協働的に音楽活動に取り組んでいるか。

4 年間指導計画

		学習の内容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	オリエンテーション	音楽経験アンケート、校歌	定期考査① 実技テスト 学習プリント	22
	5月	歌唱	歌声づくり、合唱		
	6月	楽典	リズム学習・音符の種類		
	7月	鑑賞	世界の音楽の鑑賞・調べ学習	定期考査② 実技テスト 学習プリント	18
	8月	楽典	楽譜の読み方、書き方		
9月	器楽	キーボード(ピアノ) 奏法、楽器に関する知識、鑑賞			
後期	10月	創作	変奏・DTMについて	定期考査③ 実技テスト 学習プリント	18
	11月	鑑賞	日本の音楽・調べ学習		
	12月	器楽	バイオリン 奏法、楽器に関する知識、鑑賞	定期考査④ 実技テスト 学習プリント	20
	1月	楽典	コードネームについて		
	2月	器楽	ギター 奏法、楽器に関する知識、鑑賞		

5 具体的な評価の方法

・音楽表現に必要な技能を身に付けることができたか。	実技テスト・学習プリント
・自己のイメージをもって音楽表現を工夫することができたか。	実技テスト・学習プリント
・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができたか。	プリント
・主体的協働的に活動に取り組み、遅刻、欠席することなく意欲的に関わることができたか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・実技テストにおいては結果のみでなく、技能向上に向けて努力した過程も評価する。 ・毎時間記入する「学習記録表」に、感じたこと、新たに覚えたことなどを記入、積み重ねを大切にす。 ・実技教科のため、授業への出席時間、取り組みを重視する。
--

7 教科書・副教材

教科書…Joy of Music(教育芸術社) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽鑑賞	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

音楽作品の鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 音楽作品や演奏、作曲家などについて理解を深めることができるようにする。
- (2) 音楽作品や演奏について、根拠を明確にして批評することができるようにする。
- (3) 音楽や音楽文化を尊重する態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・音楽作品について、曲想や表現上の効果と音楽の構造、文化的・歴史的背景などとの関わりを理解することに留まらず、作曲家や演奏者が音楽作品を生み出した背景やその人物像なども含めて深く理解できている。	・音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し、他者と伝え合い、論じることができている。 ・音楽のよさや美しさを味わって聴くことにとどまらず、根拠を明確にして批評することができている。	・学習プリントへの記入 ・鑑賞内容について自ら感受しようとし、自らの言葉で書き表すことができているか ・音楽的な見方、考え方から作品に関心を持ち、接することができているか ・毎時の準備、片付け、出席席の状況
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・作品の文化的・歴史的背景、作曲家についての理解、音楽的構造の理解などにおいて、レポート課題にまとめることができたか。	・授業、学習プリント、レポートにおいて、知覚、感受した内容を表す、論じることができたか。 ・音楽を評価しながら、良さや美しさを自ら味わって聴きとり、学習プリントのまとめることができたか。	・学習プリントの記入内容。 ・考えたことを自らの言葉でどのように表しているか、また他者の考えをどのように受け取り、自分の考えを更新したりすることができているか。

4 年間指導計画

		学習の内容	考查範囲	時数(予定)	
前期	4月	オリエンテーション	音楽経験アンケート、校歌	学習プリント	22
	5月	身近な音楽	自分や友達の好きな音楽について		
	6月	基礎知識	楽器の種類、音楽ジャンル、音楽を形作る要素について		
	7月	音楽史①	中世～ルネサンス期の音楽		
	8月	音楽史②	バロック～古典の音楽		
後期	9月	音楽史③	ロマン派～現代の音楽	学習プリント	18
	10月	舞台芸術	オペラ・ミュージカル・バレエ		
	11月	日本の音楽	和楽器、歌舞伎・雅楽・能	学習プリント	18
	12月	現代の音楽	身近な音楽について		
	1月	基礎知識	著作権・作曲の過程について		
	2月				
3月					

5 具体的な評価の方法

・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができたか。	学習プリント、レポート
・鑑賞内容について、感じ取ったことを自らの言葉で伝えることができたか。	
・楽器のリズムや音色、テクスチャなど知覚し、音楽的な構造を感じる事ができたか。	
・主体的に調べ学習、レポートに取り組み、遅刻、欠席することなく意欲的に関わることができたか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

・鑑賞内容から何かを感じ取り、自らの言葉で書き表す、伝えることを学びの中心とする。
・毎時間記入する「学習プリント」に、感じ取ったこと、印象に残った場面などを記入内容、積み重ねを大切にする。
・レポート課題の作成については毎時間の積み重ねを重視する。

7 教科書・副教材

音楽の鑑賞資料と基礎学習(教育芸術社)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	美術 I	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

<p>美術の幅広い創作活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> 美術表現・鑑賞に関心を持ち、作品をつくりだすのに必要な材料の扱い方や、表現技法や形式を身に付け、さらに創意工夫をしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。 作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。また、作品を感受し理解しようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
評価基準	<p>a:十分満足できる状況</p> <p>b:おおむね満足できる状況</p> <p>c:努力を要する状況</p>	<p>a:十分満足できる状況</p> <p>b:おおむね満足できる状況</p> <p>c:努力を要する状況</p>	<p>a:十分満足できる状況</p> <p>b:おおむね満足できる状況</p> <p>c:努力を要する状況</p>

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 課題作品 プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 課題作品 プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時の準備片付け 課題作品 プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) 出席 観察 	

4 年間指導計画

		学習の内容	考查範囲	時数(予定)		
前期	4月	オリエンテーション	・美術 I 学習内容の理解。教科書を見る、読む。課題制作の心得など。	定期考查①	20	
	5月	デッサン基礎	・表現の基本要素について学ぶ。	作品提出		
	6月	スケッチ基礎	・描画材料の特性、基本的な道具の扱いを身に着け、描くことを通して観る力を養う。			
	7月	色彩表現基礎	・身近なものを見つめなおし、感じ取ったことや考えたことを基に構想を練って表現する。	定期考查②		18
	8月	パステル画制作	・ほか様々な素材を用いて表現する。	作品提出		
後期	9月	切り絵制作		作品提出	22	
	10月	映像鑑賞	・映像作品を感受し理解しを深める。	定期考查③		18
	11月	伝統工芸を学ぶ	・伝統技術を受け継いだ職人の手仕事によって生み出される芸術作品や生活用品の本物の強さや価値について学ぶ	作品提出		
	12月	版画制作	・版画による表現の良さや特性を理解し、その効果を生かして表現する。	定期考查④		
	1月	スクラッチ	・様々な素材を用いて表現する。	作品提出		
	2月					
3月	制作のまとめ	・一年間の制作の振り返りとまとめ。				

5 具体的な評価の方法

・与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品
・制作反省プリントで、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞・プリント
・制作材料また用具の準備片付けが行えているか。	材料用具の扱い
・授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>美術は、表現することから始まります。「表現意欲を持つ」「表現の目的を知る」「つくることを楽しむ」態度を持つことが大切です。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。單元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。</p>
--

7 教科書・副教材

教科書…高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	美術Ⅱ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

<p>美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化について理解し個性豊かな美術の能力を高める。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようになる。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> 美術表現・鑑賞に関心を持ち、作品をつくりだすのに必要な材料の扱い方や、表現技法や形式を身に付け、さらに創意工夫をしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。 作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。また、作品を感受し理解しようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

評価方法	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> 課題作品 プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 課題作品 プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時の準備片付け 課題作品 プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) 出席 観察

4 年間指導計画

		学習の内容	考查範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション	定期考查①	20
	5月	スケッチ応用		
	6月	文化祭ポスター制作	作品提出	
	7月	色彩表現	定期考查②	
	8月	パステル画制作		
9月		作品提出	18	
後期	10月	映像鑑賞	定期考查③	18
	11月	伝統工芸を学ぶ	作品提出	
	12月	油画制作	定期考查④	22
	1月			
	2月		作品提出	
3月	制作のまとめ			

5 具体的な評価の方法

・与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品
・制作反省プリントで、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞・プリント
・制作材料また用具の準備片付けが行っているか。	材料用具の扱い
・授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>美術は、表現することから始まります。「表現意欲を持つ」「表現の目的を知る」「つくることを楽しむ」態度を持つことが大切です。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。単元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。</p>
--

7 教科書・副教材

教科書…高校生の美術2(日本文教出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	美術Ⅲ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

<p>美術の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようになる。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・美術表現・鑑賞に関心を持ち、作品をつくりだすのに必要な材料の扱い方や、表現技法や形式を身に付け、さらに創意工夫をしているか。	・自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。 ・作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。また、作品を受容し理解しようとしているか。	・表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・毎時の準備片付け ・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

	学習の内容	考查範囲	時数(予定)
前期	4月 オリエンテーション	定期考查①	22
	5月 スケッチ応用		
	6月 絵画応用	作品提出	
	7月 イラスト画制作	定期考查②	
	8月 伝統工芸を学ぶ	作品提出	
後期	10月 卒業制作	定期考查③	20
	11月	作品提出	
	12月	定期考查④	18
	1月 映像鑑賞	作品提出	
	2月 制作のまとめ	作品提出	
3月			

5 具体的な評価の方法

・与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品
・制作反省プリントで、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞・プリント
・制作材料また用具の準備片付けが行えているか。	材料用具の扱い
・授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

美術は、表現することから始まります。「表現意欲を持つ」「表現の目的を知る」「つくることを楽しむ」態度を持つことが大切です。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。単元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。

7 教科書・副教材

教科書…高校生の美術3(日本文教出版) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	探究美術	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

美術や工芸の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
 (2) 造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・工芸・デザイン・絵画に関心を持ち、考え、つくり、使うという生活文化を尊重する態度を持っているか。個性を生かして意欲的、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。	・工芸・デザイン・絵画のよさや美しさを感じ取ることができるか。目的や条件を把握し、発想を形で表せるよう表現を工夫することができるか。 ・作品について、特徴や自分の考えを述べる事ができるか。また、作品を感じ理解しようとしているか。	・表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・観察	・毎時の準備片付け ・課題作品 ・プリント(ワークシート・自己評価・鑑賞など) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

	学習の内容		考查範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション	作品提出	22
	5月	デッサン基礎		
	6月	伝統工芸を学ぶ		
	7月			
	8月	絵画基礎		
後期	9月		作品提出	18
	10月	絵画応用		
	11月			
	12月	伝統文化を学ぶ		
	1月	映像鑑賞		
2月	制作のまとめ	作品提出	18	
3月				

5 具体的な評価の方法

・与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品
・制作反省プリントで、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞・プリント
・制作材料また用具の準備片付けが行えているか。	材料用具の扱い
・授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

6 学習にあたっての注意とアドバイス

作品は完成までに長時間を必要とするものや、単調な作業が続く場合があり、制作に集中する忍耐力が必要です。完成の喜びを大きくするためには、辛抱強く、計画的に制作に取り組む姿勢が要求されます。また、美術工芸に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことも大切です。単元ごとに指定された作品を期限厳守で提出して下さい。

7 教科書・副教材

自主教材

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道 I	単位数	2 単位
-----	------	-----	------

1 科目の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。	・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。	・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察	・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察	・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考查範囲	時数
前期	4	書写から書道へ [用具・用材] [書写で学んできたこと 姿勢・執筆法] 用具・用材について理解し、手入れや準備、片付けを丁寧に行う態度を養う。また、様々な用具・用材を試して特性や性能等を理解し、目的や意図に合わせた選択が表現活動にとって重要であることを理解する。 基本の姿勢、執筆法、基本点画について理解する。	プリント提出 作品提出	22
	5	漢字の書 成立と変遷 [漢字の成立と変遷]漢字の成立と変遷について理解する。		
	6	漢字の書 楷書 「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」 ・古典を臨書する意義について理解する。 ・「九成宮醜泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較し、それぞれの印象 特徴について考える。 ・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、臨書する。		
	7	漢字の書 行書 ・行書の特徴(用筆、運筆、字形の取り方等)について理解し、練習する。 ・「蘭亭序」を鑑賞し、その美について理解する。 ・行書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、臨書する。	プリント提出 作品提出	18
	8	漢字の書 草書 ・草書成立の過程や草書の特徴について理解する。 ・「真草千字文」を鑑賞し、その美について理解する。 ・「真草千字文」の臨書を通して、草書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。		
	9	漢字の書 篆書 ・篆書成立の過程や篆書の特徴について理解する。 ・落款の意味や種類について理解する。 ・篆刻の用具、用材、手順について理解して制作し、相互評価をする。		
後期	10	漢字の書 創作 鑑賞 ・漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして創作し、相互評価をする。	プリント提出 作品提出	20
	11	仮名の書 ・仮名の成立と変遷 特徴について理解する。 ・仮名の用具、用材の特徴について理解する。 ・平仮名の単体、変体仮名、連綿を理解し、練習する ・古筆を鑑賞し、その美について理解する。 ・古筆の概要を理解し、臨書する。 ・散らし書きの構成について理解し、練習する。 ・三色紙や近現代作品について鑑賞し、それぞれの特徴について理解する。 ・古筆や近現代作品から学んだの特徴や技法を生かして行を構成し、創作し、相互評価をする。		
	12	漢字仮名交じりの書 ・近現代の作品を鑑賞する。 ・表現の工夫を試みる。「線による表現の広がり」「用具・用材による表現」「紙面構成」「言葉と書を調和」 ・表現の工夫で学んだ技法を生かして、意図に基づいて創作し、相互評価をする。	プリント提出 作品提出	18

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。
- ・「作品講評会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。
- ・提出作品は、それぞれのテーマに実現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。
- ・用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧に行う。
- ・始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。

6 教科書・副教材

教科書…書道 I (東京書籍) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道Ⅱ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書の伝統に基づいた、効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4	漢字の書 篆書の学習	定期考査① プリント提出 作品提出	22
	5	篆刻		
	6	漢字の書 隷書の学習	定期考査② プリント提出 作品提出	
	7			
	8	漢字の書 行書 草書		
後期	9	漢字の書 楷書の学習	定期考査③ プリント提出 作品提出	20
	10			
	11	漢字の書 創作 鑑賞		
	12	仮名の書	定期考査④	
1 5 3	漢字仮名交じりの書	プリント提出 作品提出		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。 ・「作品講評会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。 ・提出作品は、それぞれのテーマに実現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。 ・用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧に行う。 ・始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。
--

6 教科書・副教材

教科書…書道Ⅱ（東京書籍） 副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道Ⅲ	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性などについての理解。 ・書の伝統に基づいた、作品を創造的に表現するための技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の創造的な活動。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考查範囲	時数
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰを踏まえ、篆書 隸書 草書 行書 楷書 仮名の様々な古典に触れ、多様な表現や用筆と特徴を理解し、自ら古典を選んで意図に基づいた構成に留意しながら臨書作品を制作する。 	定期考查① プリント提出 作品提出	22
	5			
	6			
	7			
8				
後期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・名印を刻す ・刻字で刻す文字の選定し、筆で書く。 ・板に写して刻し、彩色する。 	定期考查③ プリント提出 作品提出	20
	10			
	11			
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の作品を鑑賞する。 ・意図に基づいて創作し、相互評価をする。 ・書道ⅠⅡを踏まえ、書体・書風や用具・用材、構成の効果について理解し、意図に応じた表現の工夫をする。 	定期考查④ プリント提出 作品提出	18
	1			
2				
3				

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。
・「作品講評会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。
・提出作品は、それぞれのテーマに実現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。
・用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧にやる。
・始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。

6 教科書・副教材

教科書…書道Ⅲ(東京書籍) 副教材…なし

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	実用書道	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

<p>書道の活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書と関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考查範囲	時数
前期	4	毛筆の学習 用具・基本用筆の学習	プリント提出 作品提出	22
	5	姿勢・執筆法 ・基本的姿勢、執筆法、準備、片付けについて、目的に合わせて多様な方法があることを理解する。 用具・用材 ・書道に必要な用具、用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。		
	6	硬筆の学習 基礎と応用	プリント提出 作品提出	18
	7	執筆法・用具・用材 ・筆記用具の種類と特徴、持ち方、使い方について理解し、練習する。 ・基本的な点画について理解し、練習する。 ・漢字 ひらがな カタカナについて理解し、練習する。 ・はがき 封筒の書き方について理解し、練習する。 ・履歴書等の書き方について理解し、練習する。		
8	毛筆の学習 実用的な書	プリント提出 作品提出	20	
9	・自分の氏名等を小筆で美しく書けるよう、練習する。 ・のし袋の書き方を理解し、練習する。			
後期	10	毛筆の学習 様々な表現	プリント提出 作品提出	18
	11	毛筆の学習(刻字) 生活の中で楽しむ書 グラス刻字		
	12	毛筆の学習(漢字仮名交じりの書) 生活の中で楽しむ書 手提げ袋	プリント提出 作品提出	18

5 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・よい物を作るための「こだわり」を大切に、作品作りに取り組む。 ・「作品講評会」等を通して、友人の作品からも発想や表現を学ぶ。 ・提出作品は、それぞれのテーマに実現するための工夫を凝らして制作し、期限を守る。 ・用具を大切に扱い、準備片づけを毎時間丁寧に行う。 ・始業のチャイム前に用具の準備をして、教科書を開き墨を磨って待つ。
--

6 教科書・副教材

教科書・副教材…なし

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。